

北海道浮魚ニュース

令和 5 (2023) 年度 2 号

2023 年 5 月 12 日

道総研 水産研究本部 函館水産試験場

【URL】 http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo_news.html

◎第 1 回日本海スルメイカ長期漁況予報発表される

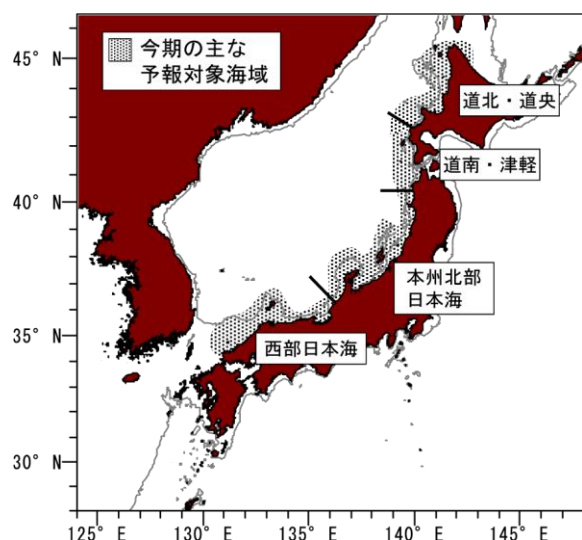
5 月 12 日に第 1 回日本海スルメイカ長期漁況予報が水産研究・教育機構により発表されましたので、概要をお知らせします。今回は本州各府県を主な対象とした漁期前半（5 月～7 月）の予報です。詳細は水産研究・教育機構 (<https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/>) および「我が国周辺の水産資源の現状を知るために」 (<http://abchan.fra.go.jp/>) のホームページからご覧になれます。

今後の見通し（2023 年 5 月～7 月）

対象魚種：スルメイカ
対象海域：日本海沿岸域
対象漁業：主にいか釣り漁業
対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：前年および近年平均を下回る
- (2) 漁期・漁場：主な漁場は本州北部日本海で
漁期は近年同様

※近年は最近 5 年間（2018 年～2022 年）、
本州北部日本海は秋田県～石川県を示す



- ・2023 年 4 月に実施したスルメイカ新規加入量調査の結果では、今期漁獲対象になると予測される外套背長 5cm 以上のスルメイカの 1 調査点あたりの採集尾数は 1.0 尾で、前年（10.0 尾）および近年平均（6.7 尾）を下回った。
- ・2022 年 10 月～11 月に実施したスルメイカ稚仔調査 I では、親魚量の指標となる幼生の分布密度は、2021 年および過去 5 年（2017 年～2021 年）平均を下回った。
- ・2019 年以降、5 月～7 月の漁獲量は本州北部日本海において全体の 60%～82%を占め、その他の各海域では多くても全体の 20%程度に留まっている。特に道北・道央および道南・津軽海域では漁獲割合の顕著な減少傾向が続いており、2019 年以降は両海域併せても全体の 18%を下回った。
- ・2023 年度第 1 回日本海海況予報では、スルメイカの漁場形成に影響を与える 4 月中旬～6 月の対馬暖流域の表面水温および 50m 深水温は、どちらも平年値（日本海海況予報における 1986 年～2015 年の平均値）よりも「かなり高め」と予測されている。2019 年以降は同様の傾向が続いており、今期の主な漁期・漁場は近年同様であると予想される。
- ・2022 年 8 月～12 月の小型いか釣り漁業等によるスルメイカ（生鮮）の漁獲量は、本州北部日本海を除く海域で 2021 年を下回り、道北・道央および道南・津軽では過去 5 年平均を下回った。

一方、2023年1月～3月の漁獲量は、本州北部日本海を除いて前年を上回った。

今後の北海道日本海へのスルメイカ来遊状況に関しては、函館水試調査船金星丸により実施する5月下旬の日本海北上期調査および6月下旬の日本海漁場一斉調査の結果も参照して下さい。また、漁期後半については7月に第2回日本海スルメイカ長期漁況予報が発表される予定です。その他の情報とともに、随時浮魚ニュースでお知らせします。

(函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-83-2893、FAX：0138-83-2849)